

栃木県わがまち未来創造事業実績書（市町総括表）

【単独事業】

市町名	足利市
-----	-----

(単位:円)

No.	単位事業名		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計
1	あしかが映像まつり	総事業費	3,576,541	3,361,353	3,000,000	3,000,000	3,000,000	15,937,894
		うち市町支出額	2,955,925	3,001,041	2,700,000	2,700,000	2,700,000	14,056,966
		うち県交付金	1,477,962	1,500,520	21,518	0	0	3,000,000
2	演芸によるふるさとまちおこし寄席	総事業費		1,813,731	1,000,000	1,000,000	760,000	4,573,731
		うち市町支出額		480,000	480,000	480,000	240,000	1,680,000
		うち県交付金		240,000	240,000	240,000	0	720,000
3	足利冬物語	総事業費		5,396,361	2,000,000	2,000,000	2,000,000	11,396,361
		うち市町支出額		1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	4,000,000
		うち県交付金		500,000	500,000	500,000	0	1,500,000
4	観光サポーターズ事業	総事業費		1,196,734	1,500,000	1,500,000	1,500,000	5,696,734
		うち市町支出額		1,196,734	1,500,000	1,500,000	1,500,000	5,696,734
		うち県交付金		598,367	500,000	500,000	0	1,598,367
5	歩くまち空間創出事業	総事業費		821,037	800,000	800,000	400,000	2,821,037
		うち市町支出額		800,000	800,000	800,000	400,000	2,800,000
		うち県交付金		400,000	400,000	400,000	0	1,200,000
6	足利尊氏マラソン大会	総事業費	17,805,162	20,601,511	21,993,000	21,993,000	21,993,000	104,385,673
		うち市町支出額	2,500,000	2,500,000	2,500,000	2,500,000	2,500,000	12,500,000
		うち県交付金	1,250,000	1,250,000	500,000	0	0	3,000,000
7	まちなか賑わい創出事業	総事業費		350,000	700,000	450,000	350,000	1,850,000
		うち市町支出額		350,000	600,000	250,000	0	1,200,000
		うち県交付金		175,000	300,000	125,000	0	600,000
		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
市町計		総事業費	21,381,703	33,540,727	30,993,000	30,743,000	30,003,000	146,661,430
		うち市町支出額	5,455,925	9,327,775	9,580,000	9,230,000	8,340,000	41,933,700
		うち県交付金	2,727,962	4,663,887	2,461,518	1,765,000	0	11,618,367

栃木県わがまち未来創造事業計画（実績）書（単位事業調査）
【単独事業】

市町	足利市
事業名	あしが映像まつり
事業主体の名称	あしが映像まつり実行委員会
代表者の名称	吉田 哲也
事業主体の所在地	足利市本城3丁目2145
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的：市民へ映像に触れる機会を提供するとともに、映像を入口とした観光誘客、商業振興を目的に実施する「あしが映像まつり」の円滑な運営を図る ・設立年月日：平成27年8月10日 ・構成員等：本市出身又は本市にゆかりのある映像関係者、市内関係団体から推薦を受けた者ほか
当該事業に係る地域の現状と課題	足利市では、第7次足利市総合計画の戦略プロジェクトに「映像」をキーワードとした街づくりを目指した「映像のまち構想プロジェクト」を掲げ、映像制作やロケーション活動の拠点づくり等の実現に向け様々な事業を展開している。今後の課題は、「映像のまち」に対する市民意識の醸成を図るとともに、観光誘客や関連産業の誘致に向け、どのようにPRしていくかである。
事業目的	「映像のまち」が市民意識に浸透し、風土や文化として息づくまちの実現を目指しながら、歴史、文化、自然などの地域資源を活用し、まちの魅力をさらに高め、これらを活用した観光誘客の活性化を図る。
事業概要	<p>【平成29年度】</p> <p>▶イベント 『星空とダム映画館』と題し、野外上映会を実施。 ・来場者300名 ・日：平成29年11月4日（土） ・会場：松田川ダムふれあい広場</p> <p>▶映像まつり 市内3か所で2日間に渡り、ゲストトークショー付き映画上映などのイベントを実施。 ・来場者数1541名 ・日：平成30年2月24、25日（土、日） ・会場：ユナイテッド・シネマ アシコタウンあしが、足利商工会議所、旧東映プラザ</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標】まちの魅力を高め足利へのひとの流れをつくる</p> <p>【KPI】観光入込客数 基準値：H26年度 355万人 → 目標値：H31年度 386万人</p> <p>【KPI達成状況】H27年度 394万人、H28年度 411万人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①映画の上映会 ②講演会 ③市内外向けPR	映画上映イベント	映画上映イベント		
事業費	3,576,541	3,361,353	3,000,000	9,937,894	3,000,000
市町支出金 (ソフト事業分)	2,955,925	3,001,041	2,700,000	8,656,966	2,700,000
うち県交付金	1,477,962	1,500,520	21,518	3,000,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	620,616	360,312	300,000		300,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	映像のまち推進課
担当者名	松浦
電話	0284-20-2260
FAX	0284-21-1384
E-mail	eizo@city.ashikaga.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書（単位事業調査）
【単独事業】

市町	足利市
事業名	演芸によるふるさとまちおこし寄席
事業主体の名称	ふるさとまちおこし寄席実行委員会
代表者の名称	会長 浜田陽一
事業主体の所在	〒320-8601 足利市本城三丁目2145（観光振興課内）
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的：この会の趣旨に賛同する者が連携して、演芸を活用しながら地域の発展及び活性化に寄与すること ・設立年月日：平成25年5月8日 ・構成員等：三遊亭歌橋、プラザハマダ、足利市観光協会、足利市 等
当該事業に係る地域の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・落語は、江戸時代から明治時代にかけての庶民の生活を伺い知ることができる伝統芸能であるとともに、人にわかりやすく物語を伝えることができる「話術」であり、現在はNHK教育テレビでも取り上げられ、子供たちにも親しまれている。 ・足利市は、落語界で栃木県初の真打であり、あしかが輝き大使となっている「三遊亭歌橋」師匠がいることが魅力の一つであるが、市民が演芸・落語に接する機会は未だに少なく、その魅力を地域活性化に十分に活かしてきていない。 ・今後は、本市にゆかりのある演芸界の実演者を活かし、市内外に本市の魅力を広く発信し、観光入込客数を増加させるとともに、演芸・落語への愛着の醸成に繋げる取組を行っていくことが課題である。
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・市内各地において寄席を定期的に開催することにより、地域活性化につなげるとともに観光ツアーの造成につなげる。 ・首都圏での演芸場等でPRすることにより新たな観光誘客につなげる。
事業概要	<p>【平成29年度】</p> <p>①ふるさとまちおこし寄席の開催 日時：6月11日、8月27日、10月6日、12月3日 開場：正午 開演：午後1時 ※10/6のみ開場：午後6時 開演：午後7時 場所：足利市民プラザ小ホール（6/11）、足利市民会館小ホール（8/27及び12/3）、足利市民プラザ文化ホール（10/6） 内容：足利落語道場の発表会及び演芸実演者による寄席</p> <p>②寄席開催にかかる広告物の作成 広告物の内容：チラシ、ポスター 広告物の配布先：チケット販売所、観光拠点施設、公民館、飲食店、商業施設 など</p> <p>③落語道場の実施 日時：年9回の開催 場所：まちなか遊学館等（通1丁目） 内容：三遊亭歌橋師匠による落語の指導 【KPI向上に繋がる取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あしかが輝き大使である「三遊亭歌橋」師匠をはじめ、出演者や関係者等の演芸界における著名人のSNSにより寄席の情報や足利市の情報の拡散を図り、足利市の魅力を発信する。 ・足利市と東武伊勢崎線で繋がっている演芸のまち「浅草」で、パンフレットの配布を行い、本イベントのPR・を行うことで、県外から足利市への観光誘客の促進を図る。 <p>【平成30年度】 継続的な実施により、催事規模を拡大する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標】観光入込客数（平成31年度目標値） 【KPI】H26 355万人 → H31 400万人 【KPI達成状況】H27 394万人、H28 411万人、H29 475万人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

（単位：円）

	29年度	30年度	31年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①ふるさとまちおこし寄席の開催 ②寄席開催にかかる広告物の作成 ③落語道場の実施	①ふるさとまちおこし寄席の開催 ②寄席開催にかかる広告物の作成 ③落語道場の実施	①ふるさとまちおこし寄席の開催 ②寄席開催にかかる広告物の作成 ③落語道場の実施		①ふるさとまちおこし寄席の開催 ②寄席開催にかかる広告物の作成 ③落語道場の実施
事業費	1,813,731	1,000,000	1,000,000	3,813,731	760,000
市町支出金（ソフト事業分）	480,000	480,000	480,000	1,440,000	240,000
うち県交付金	240,000	240,000	240,000	720,000	
市町支出金（ハード事業分）				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	1,333,731	520,000	520,000	2,373,731	520,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	観光振興課観光・コンベンション担当
担当者名	吉田 雅裕
電話	0284-20-2165
連絡先 FAX	0284-21-0643
E-mail	kankou@city.ashikaga.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書（単位事業調査）
【単独事業】

市町	足利市
事業名	足利冬物語
事業主体の名称	足利冬物語実行委員会
代表者の名称	委員長 早川慶治郎
事業主体の所在	〒326-8502 足利市通三丁目2757
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的：まちなかが閑散としがちな冬季に賑わいを創り出そうと新しいイベントを創出する ・設立年月日：平成27年12月4日 ・構成員等：足利市、足利商工会議所、足利市観光協会、足利市農業協同組合 ほか
当該事業に係る地域の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・足利市には、歴史、文化、自然その他の豊かな地域資源があります。その資源を磨き上げ、まちの魅力としてさらに高め、観光と交流の活性化を図る必要があります。 ・地域資源を発掘し、その資源を活用した新商品を開発し、新たな誘客と、来訪者の宿泊や飲食などの消費行動を促進し、中心市街地及び市内全域の経済活性化を図る必要があります。 ・現在、観光プロモーションにおいて、四季のイベントや祭事を取りまとめ、情報発信をしています。その中で冬季はまだ資源が乏しく、中心市街地も閑散とした雰囲気が漂っています。 ・その中において、毎年2月3日の節分に実施されている「節分鑑年越し」があります。鑑行列の武将の姿は外国人にも人気が高く、平成30年2月3日は土曜日となります。これを機会に、「節分行事」と「鑑行列」を分離し、土曜日の夕刻からの開催で定着させることを検討します。
事業目的	「足利冬物語」として、100年以上にわたり実施されている伝統行事「節分鑑年越し」と食のイベント「足利風土祭」、行灯でまちなかを彩る光のイベント「足利銘仙灯り」を実施することにより冬季における市内への観光誘客を促進し、回遊性を高めます。
事業概要	<p>【平成29年度】</p> <p>■足利冬物語の開催</p> <p>①鑑年越しの観光商品化 期日：2月3日（土） 場所：織姫公民館～鏝阿寺 内容：足利市の冬の伝統的行事である「節分鑑年越し」。外国人観光客や市内外からの誘客につなげるための連携事業の実施</p> <p>②足利風土祭の実施 期間：2月3日（土）～2月25日（日） 場所：市内飲食店、ギャラリー など 足利の食文化の活性化・芸術文化の再認識・農と食の安全安心をアピールすることで街の活性化につなげるイベントの開催 内容：飲食店が企画したイベントを足利産の食材を使った料理とともに楽しんでもらうコース「風土祭コース」、自慢の料理と飲み物を低額、低料金で提供するコース「ほろ酔いコース」、ギャラリーや画廊が足利ゆかりの作家の作品を展示するコース「アートコース」</p> <p>③足利銘仙灯りの実施 期間：2月3日（土）～2月25日（日） 場所：中心街の石畳通り、足利風土祭参加店舗の店先 など 期間中の夕刻に幻想的な雰囲気を演出し、市内回遊を図り待ちの活性化につなげる。 内容：足利市の織物産業の中心であった足利銘仙は斬新な図柄が人気を誇った。その図柄を活用した行灯を街の中に設置します。</p> <p>④刀剣展示の実施 期間：2月2日（金）～2月25日（日） 場所：史跡足利学校 期間中の夕刻に幻想的な雰囲気を演出し、市内回遊を図り待ちの活性化につなげる。 内容：鏝阿寺鑑年越しをさらに盛り上げるために、ターゲットに近い「刀剣展示」を実施します。</p> <p>【平成30年度】</p> <p>継続的な実施により、催事規模を拡大する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標】観光入込客数（平成31年度目標値）</p> <p>【KPI】H26 355万人 → H31 400万人</p> <p>【KPI達成状況】H27 394万人、H28 411万人、H29 475万人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	29年度	30年度	31年度	支援期間の事業費計	支援期間の翌年度
事業内容	①鑑年越しの観光商品化 ②足利風土祭の実施 ③足利銘仙灯りの実施	①鑑年越しの観光商品化 ②足利風土祭の実施 ③足利銘仙灯りの実施	①鑑年越しの観光商品化 ②足利風土祭の実施 ③足利銘仙灯りの実施		①鑑年越しの観光商品化 ②足利風土祭の実施 ③足利銘仙灯りの実施
事業費	5,396,361	2,000,000	2,000,000	9,396,361	2,000,000
市町支出金(ソフト事業分)	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	1,000,000
うち県交付金	500,000	500,000	500,000	1,500,000	
市町支出金(ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	4,396,361	1,000,000	1,000,000	6,396,361	1,000,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	観光振興課観光・コンベンション担当
担当者名	久保 康弘
電話	0284-20-2165
連絡先 FAX	0284-21-0643
E-mail	kankou@city.ashikaga.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書（単位事業調査）
【単独事業】

市町	足利市
事業名	観光サポーターズ事業
事業主体の名称	一般社団法人足利市観光協会
代表者の名称	代表理事 早川慶治郎
事業主体の所在	〒320-0053 足利市伊勢町三丁目6-4
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的：足利市内における観光事業の振興を図り、産業・文化の発展に寄与することを目的とする。 ・設立年月日：平成26年9月25日 ・構成員等：観光振興関係団体
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>足利市内における観光を推進していく中では市民の協力は不可欠であります。足利市の魅力を最大限に情報発信するには、「足利を愛し、足利の知識がある」方に担っていただく必要があります。観光のまちづくりを推進するためには、「おもてなし」意識を皆が持ち、市民の皆様が観光地としての意識改革をしなければなりません。</p> <p>観光誘客におけるキャンペーンなどでは、職員が実施している現状であり、人件費の負担が大きくなっています。観光ボランティアガイドの皆さんは知識も豊富で活躍をされています。しかし、新たに加入しづらい状況がみられます。</p>
事業目的	<p>足利市内における観光を推進するために市民が協力しやすい環境を整えます。観光のまちづくりを推進するために、「おもてなし」研修会を開催し、市民の皆様が観光地としての意識改革を図ります。足利が大好きな方が、市外の皆様に足利の良さを伝えることにより、より高い好感度を得られることが期待できることから、観光に携わるアシスタントを公募し、登録していただき、様々な観光誘客の機会に活躍していただきます。観光ボランティアガイドを大きな枠の中で活動していただき、相互協力体制を作って、互いに関心を示していただき、加入しやすい環境を作ります。</p>
事業概要	<p>【平成29年度】</p> <p>①観光案内人の育成と常駐体制の整備 常駐案内期間：4月15日から5月21日 10月21日～11月26日の土日祝日など延べ31日間 先遣地視察研修：9月19日（場所：埼玉県川越市） ボランティアガイド研修会：7月11・25日、8月1・22日、9月12日（場所：史跡足利学校、鏡阿寺） 桐生市とのボランティアガイド交流会 2月19日・3月20日（場所：桐生市、足利市） 内容：史跡足利学校に常駐して観光案内を実施することにより足利の魅力を高めるとともに郷土愛の醸成を図る。</p> <p>②観光アシスタントの公募、観光案内人・観光アシスタントとの相互協力体制の構築 実施日：4月16日、2月7日（とちまるショップ、まるごとにつぼんでの観光キャンペーン） 内容：観光に係る活動をしたい市民の方の登録により、観光事業で自分の得意分野を活かして活躍していただく制度。観光キャンペーンや旅行会社からの依頼等に対応。</p> <p>③ボランティアガイドの育成（外国語を含む） 実施日：2月14日・17日・24日の全3回開催 観光に対するおもてなしの心を醸成するとともに、外国人に対応する場面で活躍する場面を創出します。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標】観光入込客数（平成31年度目標値） 【KPI】H26 355万人 → H31 400万人 【KPI達成状況】H27 394万人、H28 411万人、H29 475万人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	29年度	30年度	31年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①観光案内人の育成と常駐体制の整備 ②観光アシスタントの公募、観光案内人・観光アシスタントとの相互協力体制の構築 ③外国語ボランティアガイドの育成	①観光案内人の育成と常駐体制の整備 ②観光アシスタントの公募、観光案内人・観光アシスタントとの相互協力体制の構築 ③外国語ボランティアガイドの育成	①観光案内人の育成と常駐体制の整備 ②観光アシスタントの公募、観光案内人・観光アシスタントとの相互協力体制の構築 ③外国語ボランティアガイドの育成		①観光案内人の育成と常駐体制の整備 ②観光アシスタントの公募、観光案内人・観光アシスタントとの相互協力体制の構築 ③外国語ボランティアガイドの育成
事業費	1,196,734	1,500,000	1,500,000	4,196,734	1,500,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,196,734	1,500,000	1,500,000	4,196,734	1,500,000
うち県交付金	598,367	500,000	500,000	1,598,367	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	0	0	0	0	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	観光振興課観光・コンベンション担当
担当者名	堀井 雄一郎
電話	0284-20-2165
FAX	0284-21-0643
E-mail	kankou@city.ashikaga.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書（単位事業調査）
【単独事業】

市町	足利市
事業名	歩くまち空間創出事業
事業主体の名称	一般社団法人足利市観光協会
代表者の名称	代表理事 早川慶治郎
事業主体の所在	〒320-0053 足利市伊勢町三丁目6-4
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的：足利市内における観光事業の振興を図り、産業・文化の発展に寄与することを目的とする。 ・設立年月日：平成26年9月25日 ・構成員等：観光振興団体
当該事業に係る地域の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・足利市は、「足利学校」・「鍬阿寺」など、貴重な歴史遺産が中心市街地にまとまって存在するという、近隣市には無い特色と地理的優位性がある。その特長を最大限に生かして、まちのにぎわいを再生し中心市街地の活性化や交流人口の増加による経済活性化につなげる取り組みを行っていくことが課題である。 ・少子高齢化・人口減少が急速に進む中、高齢になっても地域で元気に暮らせる社会を実現するためにも「健幸＝健康で幸せ（身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ、安心安全で豊かな生活を送れること）」づくりである「スマートウェルネスシティ構想」を推進している。 ・「スマートウェルネスシティ構想」の実現の一つとして、人が集う魅力ある場所を創出し、回遊性を高め、まちのにぎわい創出につなげる取り組みを行っていくことが課題である。
事業目的	<p>「スマートウェルネスシティ構想」の実現の一つとして、魅力ある場所を創出し人を集め、回遊させることにより、にぎわいを創出につなげる取り組みを実施する。自動車の流入を制限する区域を設定し、安全・安心に歩かせることにより、日常の身体活動量の増加による健康度の向上、医療費の抑制、さらにはまちの元気につながる。</p> <p>そのために、まち歩きの拠点施設である「足利まちなか遊学館」との連携により、週末に学校様通りを歩行者天国区間として開放し、催事を開催することにより、市民や観光客の交流によるまちのにぎわいの創出を目指す。</p>
事業概要	<p>【平成29年度】 【事業概要】 ①車両の進入を規制してのイベントの開催 開催日：平成30年3月3日（土） 開催場所：足利学校様通り ②イベント実施のためのテント、テーブル、イスの購入 イベント開催における参加者の負担を減らし、会場全体で統一感を持たせるために初期投資としてテーブル、イスを購入する。 ③イベントを広く周知するため、ホームページやSNS等を使った広報を行う。 【KPIにつながる取組】 ・ホームページやSNSなど、紙媒体以外での周知を行い県内外からの交流人口を増やす。 ・歩行者天国を使ったイベントの実施により交流を図り、市内外からの観光誘客につなげる。 ・歩行者天国区域から市内回遊を促進させ、まちのにぎわいを創出し、中心市街地の活性化を図る。</p> <p>【平成30年度】 実行委員会の体制を構築し、さらに開催日数の拡大を図るとともに、より多くの集客を図れるイベントに成長させる。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標】観光入込客数（平成31年度目標値） 【KPI】H26 355万人 → H31 400万人 【KPI達成状況】H27 394万人、H28 411万人、H29 475万人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	29年度	30年度	31年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①車両の進入を規制してのイベントの開催 ②イベント実施のためのテーブルの購入等	①車両の進入を規制してのイベントの開催	①車両の進入を規制してのイベントの開催		①車両の進入を規制してのイベントの開催
事業費	821,037	800,000	800,000	2,421,037	400,000
市町支出金 (ソフト事業分)	800,000	800,000	800,000	2,400,000	400,000
うち県交付金	400,000	400,000	400,000	1,200,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	21,037	0	0	21,037	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	観光振興課観光・コンベンション担当
担当者名	吉新 知照
電話	0284-20-2165
FAX	0284-21-0643
E-mail	kankou@city.ashikaga.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)
【単独事業】

市町	足利市
事業名	足利尊氏公マラソン大会
事業主体の名称	足利尊氏公マラソン大会実行委員会
代表者の名称	会長 和泉 聡
事業主体の所在	足利市本城三丁目2145(市民スポーツ課内)
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> 団体の目的:生涯スポーツの推進を図ると共に、足利市のPR及び活性化に寄与することを目的とする。 設立年月日:平成26年7月16日 構成員:足利市、足利商工会議所、栃木県安足土木作業事務所、足利市自治会長連絡協議会、足利市農業協同組合、(公財)足利市みどり文化・スポーツ財団、足利市体育協会、足利交通安全協会、足利陸上競技倶楽部、足利市レクリエーション協会、足利市交通指導員連絡会、(一社)足利青年会議所、足利市スポーツ推進委員会など
当該事業に係る地域の現状と課題	足利尊氏公マラソン大会は、今年度で第40回目の記念大会の開催となり、近年の健康ブームから参加者は約5,000人ほどの市民に定着したイベントとなった。また、市外からも約3,000人の参加があり、スポーツイベントという枠にとどまらず、観光振興やシティープロモーションにおいても大いに活用が期待される。しかし、大会運営にあたり交通規制のための委託料等経費が年々増加している。
事業目的	本来の目的である生涯スポーツの推進を図るとともに、足利市の魅力を全国に積極的に発信する絶好の機会になることから、本市の活性化に寄与することを目的とする。
事業概要	<p>【平成29年度】</p> <p>【大会概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> マラソン大会の開催(種目:ハーフマラソン、10km、5km、3km、ベア):11月5日(日)開催。 レクリエーションイベントの開催:足利市レクリエーション協会の協力によりニュースポーツ体験コーナー等を開設。 レースコースの安全管理:コース内自治会による立派員のご協力。 ポスター・チラシ等の作成:栃木県内、近隣市町村のスポーツ課等にポスター・チラシの配布 大会参加者のエントリー受付:スポーツエントリー、ランネット、電話申込など幅広い年代に対応できるよう複数方法を起用。 実行委員会の開催:大会が盛会となるよう大会運営の内容について実行委員会に諮る。 大会シンボルマークの作成、オリジナルTシャツの販売:第40回大会を記念して、大会シンボルマークを作成、そのマークをデザインしたオリジナルTシャツの販売を行った。 <p>【KPI向上に繋がる取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市外から参加したランナーには、足利市の歴史や文化に触れていただけるよう、ナンバーカードの提示により中心市街地の文化施設(足利学校・市立美術館等)の入場料を無料(市内ランナーも可)とし、観光回遊性や消費を高める事業との連携した取り組みを行う。 市民参加の管轄には、生涯スポーツを推進するようイベントとして盛り上げていく。 ランナー賞を創設し、賞品に市の名産品を活用するなど、観光PRに努めることにも、大会参加後にはまちなかで文化めぐりなどが出来るしかけづくりを行い、前大会から復讐賞を復活させることで、多くのランナーが会場を盛り上げる。 毎年好評である足利市レクリエーション協会と連携したレクリエーションや遊びのイベントを開催し、ランナーの帰りを待つ家族や、会場を訪れていたいた親子が楽しめるような内容とする。また、自治会のご協力もいただき、応援旗を配布するなどコース沿道の応援者を増やす。 <p>【平成30年度】</p> <p>前年度の取組を継続し、より多くの集客を得られるよう、オリジナル性のある参加賞の作成、足利市の特色を生かしたイベントの開催、観光PRとなるような効果のあるイベントに成長させる。さらにマラソン大会にとどまらず、大会に参加せずとも、休日を家族で楽しめるイベントとして内容を充実させていきたい。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>各市町の戦略から抜き出して記載</p> <p>【基本目標】まちの魅力を高め足利へのひとの流れをつくる</p> <p>【KPI】観光入込客数 基準値:H26年度 355万人 → 目標値:H31年度 386万人</p> <p>【KPI達成状況】H27年度 394万人、H28年度 411万人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> マラソン大会の開催 レクリエーションイベントの開催 レースコースの安全管理 ポスター・チラシ等の作成 大会参加者のエントリー受付 実行委員会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> マラソン大会の開催 レクリエーションイベントの開催 レースコースの安全管理 ポスター・チラシ等の作成 大会参加者のエントリー受付 実行委員会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> マラソン大会の開催 レクリエーションイベントの開催 レースコースの安全管理 ポスター・チラシ等の作成 大会参加者のエントリー受付 実行委員会の開催 		<ul style="list-style-type: none"> マラソン大会の開催 レクリエーションイベントの開催 レースコースの安全管理 ポスター・チラシ等の作成 大会参加者のエントリー受付 実行委員会の開催
事業費	17,805,162	20,601,511	21,993,000	60,399,673	21,993,000
市町支出金(ソフト事業分)	2,500,000	2,500,000	2,500,000	7,500,000	2,500,000
うち県交付金	1,250,000	1,250,000	500,000	3,000,000	
市町支出金(ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	15,305,162	18,101,511	19,493,000	52,899,673	19,493,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	市民スポーツ課
担当者名	戸田
電話	0184-20-2232
FAX	0284-20-2214
E-mail	s-sports@city.ashikaga.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画（実績）書（単体事業調査）
【単体事業】

市町	足利市
事業名	まちなか賑わい創出事業
事業主体の名称	ARTあしかが実行委員会
代表者の名称	栗田 俊英
事業主体の所在	足利市本城3丁目2145
事業主体の概要	<p>・団体の目的：アートを通して本市の魅力を感じてもらうとともに、関係者と連携を図ることで、観光誘客及び商業振興を</p> <p>目的に開催するアートイベント「ARTあしかが」の円滑な運営</p> <p>・設立年月日：平成29年11月8日</p> <p>・構成員等：市内の美術館又はギャラリーの責任者、市内で作品展示を行うアーティスト又は団体の責任者、学識経験者など</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>本市では、第7次足利市総合計画の戦略プロジェクトに、「まちの魅力発信プロジェクト」を掲げ、歴史・文化・自然・風土などの豊かな地域資源を磨き上げ、まちの魅力を更に高め、地域のおもてなしと地域の特性を活かしながらにぎわいと魅力あるまちづくりに取り組んでいる。また本市には、本市に魅力を感じる市民団体などが市内の古民家等を活用した作品展示を行っている。</p> <p>今後一層の交流人口の増加によるにぎわい創出のためには、各種団体の連携と一体的な広告宣伝が課題である。</p>
事業目的	<p>平成30年春の栃木デスティネーションキャンペーンに併せて、市内の美術館、ギャラリー、古民家等を会場としたアートイベント「ARTあしかが」を開催することで、首都圏などからの更なる交流人口の増加による地域活性化を図る。</p> <p>また市民がアートを通して、普段気づかない本市の魅力を再認識することで、シビックプライドの醸成を図る。</p>
事業概要	<p>■ARTあしかがの事業概要</p> <p>市立美術館及び市内ギャラリーが連携するアートリンクinあしかがや、市内で作品展示を行う各種団体が、栃木デスティネーションキャンペーン期間中に連携し、アートイベント「ARTあしかが」を開催する。実行委員会では期間中、各種展示を一体的に楽しんでいただけるような企画展等の開催、イベント全体の広告宣伝、関係団体との連携を図るための実行委員会を開催し、各種展示については各種団体がそれぞれ自主的に行うものとする。</p> <p>期間：平成30年5月13日～6月16日</p> <p>会場：市内の美術館、ギャラリー、古民家等 19か所</p> <p>■平成29年度の実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種展示を一体的に楽しんでいただけるような企画展等の計画 イベント全体の広告宣伝（イベントの楽しみ方などをまとめたポスター、パンフレット等を作成し、配布する） 作品を展示する各種団体との連絡調整 <p>■平成30年度の実施予定</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種展示を一体的に楽しんでいただけるような企画展等の開催 平成31年度のARTあしかが開催に向けた準備
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標】観光入込客数（H31年度目標値）</p> <p>【KPI】H26 355万人 → H31 400万人</p> <p>【KPI達成状況】H27 394万人、H28 411万人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	29年度	30年度	31年度	支援期間の事業費計	支援期間の翌年度
事業内容	【ARTあしかが2018】 ①企画展等の計画 ②イベントの広告宣伝 ③関係者協議	【ARTあしかが2019】 ①企画展等の計画 ②イベントの広告宣伝 ③関係者協議	【ARTあしかが2019】 ①企画展等の開催		【ARTあしかが2020】 ①企画展等の計画 ②イベントの広告宣伝 ③関係者協議
事業費	350,000	700,000	450,000	1,500,000	350,000
市町支出金(ソフト事業分)	350,000	600,000	250,000	1,200,000	0
うち県交付金	175,000	300,000	125,000	600,000	
市町支出金(ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	0	100,000	200,000	300,000	350,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	企画政策課・地方創生担当
担当者名	柏瀬 誠
電話	0284-20-2103
FAX	0284-21-1384
E-mail	kikaku@city.ashikaga.lg.jp